未来への一歩

ゼロカーボンアクション30を始めよう

福津市は脱炭素社会の実現に向けて、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」を目指しています。そこで、皆さんが取り組める身近な行動（アクション）を、広報ふくつ8月号に続いて紹介します。

問い合わせ　市うみがめ課 ☎62・5019

地球温暖化を抑制するために

現在、私たちは、二酸化炭素を含む大気中の温室効果ガスの増加が主な原因と考えられる、地球温暖化に直面しています。

近年、県内をはじめ全国各地で大雨災害が発生し、多くの被害をもたらしています。猛暑や大雨などの異常気象の原因の一つは地球温暖化と考えられていて、人間の生活や生態系に悪影響を及ぼしています。

地球温暖化は、猛暑や大雨災害だけでなく、さまざまな形で生命を脅かすこともあることから、私たちにとって身近な問題です。二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指すために、私たちにもできる取り組み「ゼロカーボンアクション30」をできることから始めてみましょう。

今月号はゼロカーボンアクションの8つの大項目のうち、広報ふくつ8月号で紹介しきれなかった、残り5つの項目について紹介します。

食ロスをなくそう！

「食ロス（食品ロス）」とは、本来食べられるのに捨てられてしまう食品のことです。農林水産省によると、日本の食品ロスの量は、令和3年度推計値で年間523万トンです。

これは、日本人1人当たりに換算すると約42kg、毎日、茶わん1杯分のご飯を捨てているのとほぼ同じです。

家庭で発生する食品ロスは、次の3つに分類されます。

①食べ残し

食卓にのぼった食品で、食べ切れずに廃棄されたもの

②直接廃棄

賞味期限切れなどで使用・提供されず、手付かずのまま廃棄されたもの

③過剰除去

厚くむき過ぎた野菜の皮など、不可食部分を除去する際に、過剰に除去された可食部分

食品ロスは、生ごみとして廃棄されます。生ごみは多くの水分を含み、焼却処分の際に多くのエネルギーを消費します。二酸化炭素の排出を抑制するためにも、食品ロスを減らすことが大切です。

18 食事を食べ残さない

適量サイズの注文ができる店やメニューを選ぶこと、食べ残してしまった場合に持ち帰ることで、食品ロスが減らせます。その他にも「適量の注文で食事代を節約できる」などの利点があります。また、食べ残しが減ることは料理の提供者側の意欲向上にもつながります。

19 食材の買い物や保存等での食品ロス削減の工夫

食品ロスを減らすために、購入や保存の段階で、できることが2つあります。1つ目は食べ切れる量しか買わないこと、2つ目はどうしても使い切れなかったものは工夫して保存することです。

余った食品は、公共施設やスーパーマーケットなどで行われるフードドライブなどを活用し、フードバンクなどに寄付することも有効な取り組みの一つです。

その他にも「計画的な買い物で食費を節約できる」「フードバンクなどへの寄付は、生活困窮者支援にもつながる」などの利点があります。

20 旬の食材、地元の食材でつくった菜食を取り入れた健康な食生活

食品が流通する過程で、多くの二酸化炭素を排出しています。買い物する際は、旬のものや食材の生産地を意識してみましょう。

地元の食材は新鮮な状態で食べることができ、旬の食材は味はもちろん、栄養価が高く体にも良いです。

21 自宅でコンポスト

コンポストとは、家庭から排出される生ごみなどの有機物を、微生物の働きを活用して発酵・分解させ堆肥を作る容器、またはできた堆肥そのものことです。二酸化炭素を排出せずに、自然の力で生ごみを減らすことができます。

その他にも「子どもへの環境教育につながる」「作った堆肥を家庭菜園やガーデニングに活用できる」などの利点があります。

国が示している「ゼロカーボンアクション30」の項目一覧

ひとりひとりができること
ゼロカーボンアクション30

- エネルギーを節約・転換しよう！
- 太陽光パネル付き・省エネ住宅に住もう！
- サステナブルなファッションを！
- 食ロスをなくそう！
- CO2の少ない交通手段を選ぼう！
- CO2の少ない製品・サービス等を選ぼう！
- 3R（リデュース、リユース、リサイクル）
- 環境保全活動に積極的に参加しよう！

※赤枠内は９月号で紹介する項目

神興小学校児童のコンポスト作り

楽しみながら環境問題について学習中！

神興小学校の給食委員の５、６年生は、今年の６月から、株式会社林田産業とともに、給食を作るときに出た生ごみを使ってコンポスト作りを始めました。プラスチック製の箱に、生ごみと林田産業が提供した綿状の竹材を混ぜ、微生物の力で生ごみを分解して肥料にし、野菜を育てる取り組みです。

この日は、６年生が昼休みに給食室まで生ごみを取りに行き、生ごみの量とコンポストの温度を測り、コンポストがうまく発酵しているか確認しました。「コンポストを使い野菜を育てて、学校のみんなに食べてほしい」という目標を持ち、「黒っぽくなった」「玉ねぎの皮は分解しないかも」などと言い合いながらコンポストを混ぜていました。

児童は、コンポスト作りを通して、ごみの減量の大切さや排出する際にしっかりと分別をすることなどを意識するようになったそうです。

給食委員担当の小林先生は「コンポスト作りを通して児童にごみの削減や再利用の取り組みの意味を考えてもらいたい。持続可能な社会実現に向け、学んだことや気付きを家庭や地域で広め、主体的に生かせるようになってもらいたい」と話すとともに、児童の変化を実感しているそうです。

▲ニンジンの皮などの生ごみを少しずつ加えていきます

▲生ごみの量や温度は、毎回、記録用紙に必ず記入します

▲発酵が進むように、竹材とコンポストをしっかりと混ぜます

CO2の少ない交通手段を選ぼう！

22 スマートムーブ

自動車以外の移動手段を選ぶことをスマートムーブといいます。自動車から排出される二酸化炭素の割合は、他のものからの排出割合に比べて高くなっています。

移動するときには、なるべく徒歩や自転車、公共交通機関を利用しましょう。また、自動車を運転するときは急発進や急加速などをしないよう注意することも大切です。

その他にも「徒歩や自転車を使うことで、交通渋滞の緩和や健康増進につながる」「急発進や急加速に気を付けることで安全運転につながる」などの利点があります。

23 ゼロカーボン・ドライブ

ゼロカーボン・ドライブとは自動車走行時の二酸化炭素排出をゼロにすることです。

再生可能エネルギーを動力源にして、電気自動車（EV）やプラグインハイブリッド車（PHEV）、燃料電池自動車（FCV）を利用することで実現できます。

また、これらの車はキャンプや災害時などには、蓄電池として活用できます。

CO2の少ない製品・サービス等を選ぼう！

24 脱炭素型の製品・サービスの選択

商品を選ぶときは、エコマークやグリーンマークが付いたもの、二酸化炭素排出量を表記しているものを選んでみましょう。

このような商品はまだ数が少なく、比較的価格が高いですが、販売数が増えれば、商品の多様化や価格低減につながります。

25 個人のESG投資

ESG投資とは、環境・社会・企業統治の3つの観点から企業を分析、評価した上で投資先を決める方法です。

単に利益の有無だけでなく、環境などに配慮している企業を選んで投資することで、脱炭素社会に向けての勢いを加速させることができます。

3R（リデュース、リユース、リサイクル）

3R（スリーアール）とは「Reduce（リデュース）＝ごみをなるべく出さないこと」「Reuse（リユース）＝まだ使えるものを繰り返し使うこと」「Recycle（リサイクル）＝資源として再利用すること」の総称で、ごみを減らすための3つの工夫を表した言葉です。

26 使い捨てプラスチックの使用をなるべく減らす。マイバッグ、マイボトル等を使う

プラスチックごみは道路や川などに捨てられると、分解されず自然界に残り、生態系などに悪影響を与えます。

決められた場所にごみを捨てることはもちろん大事ですが、マイバッグやマイボトルなどを活用し、プラスチックごみ自体を発生させないようにしましょう。

27 修理や修繕をする

ものが壊れたらすぐに捨てるのではなく、修理や修繕をして、ごみになるものを減らしましょう。同じものを長く使い続けることで、愛着も湧いてきます。

28 フリマ・シェアリング

フリーマーケットを利用すれば、自分が不要となったものを必要としている人の手に渡らせることができます。

シェアリングとは、必要なものを必要なときに借りることができるサービスで、そもそも不要なものが発生しません。

29 ごみの分別処理

使用済み食品トレイや牛乳パック、ペットボトルなど、ごみを正しく分別して捨てることで、資源として利用できるものが増えます。

また、家庭からのごみが減り、焼却の際に発生する二酸化炭素を削減できます。

環境保全活動に積極的に参加しよう！

30 植林やごみ拾い等の活動

木などの植物は、光合成をすることで二酸化炭素を吸収するため、森林面積を増加させることが、大気中の二酸化炭素削減に効果があります。

また、植林やごみ拾いなどの環境保全活動に参加することで、環境への関心の輪を広げることができます。

脱炭素社会の実現や地球温暖化問題解決には、一人一人の意識を変えることが大切です。まずは地域の環境保全活動に参加してみましょう。

一人一人が取り組むことが大切

広報紙8月号と9月号の2回にわたって「ゼロカーボンアクション30」について紹介しました。紹介した取り組みの中には、実行するのが難しいものもあるかもしれませんが、既に実行しているものやすぐに実行できるものも多いはずです。

大切なことは一人が無理をして頑張るのではなく、一人でも多くの人が少しずつ継続的に取り組むことです。

自分のライフスタイルに合わせ、できることから取り組んでみてください。

ゼロカーボンシティふくつのシンボルロゴマーク募集

デザインの内容
皆が一丸となっていることが分かるようなデザインで、必ずどこかに市名を使用すること

応募期限
9月15日（金）

応募資格
年齢およびプロ・アマチュアの要件はありません
※未成年者が応募する場合は、親権者の同意が必要

優秀賞
副賞として図書カード1万円分を贈呈。11月開催予定の福津市環境フォーラムで表彰および贈呈式を行います

詳しくは市公式ホームページをご覧ください。

有限会社西村産業が取り組む公共エリア環境美化活動

小さな活動が環境への関心のきっかけになれば

▲気温30℃を越える中、国道沿いの雑草取りをする職員

▲ごみ学習で児童に人気の、パッカー車によるごみ回収の実演をしている様子

▲清掃活動について詳しく語る職員

有限会社西村産業の皆さんは、事業所前の国道495号線の法面（のりめん）の雑草取りなどを気付いたときに行い、また、毎朝、事業所が面する市道を見回り、ごみ拾いなどの清掃活動をしています。

清掃活動を始めたきっかけは、草が生い茂っていた法面を見て、単にきれいにしたいと思い立ったことで、始めてから今年で数十年が経ちます。皆さんが清掃をしなければならない場所ではないですが、自動車の往来も多く、また、登下校中の子どもたちの目に触れる場所なので、清掃活動を続けています。

今では、通り掛かった地域の人や子どもたちが声を掛けてくれて、良いコミュニケーションの機会にもなっています。また、新入生の中には「学校や家の場所が分からない」と頼ってくる子どももいて、道案内をすることもあるそうです。

最近はコロナ禍（か）の影響で、マスクを拾うことがほとんどとのことですが、市道を見回るときには、地面に落ちている石なども拾い、安全に通行や歩行ができるように気を付けています。

西村産業の皆さんは、福津市内のごみ回収を行うとともに、福津市をきれいに保ち続けたいという強い思いを持っています。市内の小学校で、市や他の清掃業者と協力して4年生を対象にごみに関する学習を行っているのも、そのような思いからです。

市民の皆さんの中にも環境美化への意識が高いかたが多く、日常的にさまざまな公共エリアを清掃している姿を見掛けると、とても良い刺激を受けるとともに心を動かされ、さらに頑張ろうと思えるそうです。

「自分たちの小さな清掃活動を通じて、市民の皆さんの環境に対する意識を少しでも変えることができるのならば、これ以上ない幸せ」と日々感じながら、西村産業の皆さんは、今後も、今まで通りの清掃活動を続けていきます。